

発行

2020

3/30

公民館報 まつもと

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 48

数十万株の花が咲き乱れる 福寿草の里…

自然の土手に
自生する…

例年3月上旬から中旬にかけて見頃になる、四賀地区にある赤怒田福寿草公園。今年は早い春の訪れで、2月から咲き出しました。

この福寿草は整備された公園ではなく、自然の土手に咲くのが特徴。特に雪の中から顔を出して咲く姿は、感動的でもあります。

今年は新型コロナウイルスの感染対策で、福寿草まつりのイベントは中止。暖冬の影響で、花は通常より早めに咲いていました。

来年は「福寿草まつり」が、盛大に開催できることを願いながら…。

未来へつなぐ私たちの まちづくりの集い

令和2年2月16日に松本市中央公民館(Mウイング)にて、第35回公民館研究集会・令和元年度地域づくり市民活動研究集会が開催されました。

基調講演

町内公民館から始める コミュニティづくり

松本市との共同事業である「多世代参画型地域共生コミュニティづくりモデル事業」について、東京大学大学院教育学研究科牧野篤教授のお話と、牧野研究室の院生3人による研究発表がありました。

この事業では昨年度、市内35地区のうち20地区56町会を調査しました。今年度は旧市



聴講者も年々増えています

(鷹匠町町会、新市(新井町会)、中山間部(橋場町会)にて現状や課題を住民と認識・共有したものです。それぞれの町会で行われたワークショップの様子などを院生が一人ずつ説明しました。

牧野先生は「町会によそ者(東大)が介入することによってそれぞれが当事者となる。問題とされていることの裏に何が起きていたのか、実は、子どもたちも地域のことを意識している、という事が分かってくる。それに気づいて次の世代につないでいく。そこにあるのが町会というコミュニティ、町内公民館です」と話しました。

分科会

今回は11の分科会で市民からはつきりとしたテーマが提案されました。その中から第1・第7分科会をピックアップしました。



松本の未来につながる熱心な話し合いがなされました

●第1分科会

松本の歴史・文化を

次世代に伝えていくために

古い8ミリフィルムを掘り起こし地域映画づくりをしている三好大輔さん、地区の歴史イラストマップの製作を進めた第三地区まちづくり協議会副会長の降旗都子さん、女鳥羽川の三九郎イラストマップを作製したイラストレーターの高田美果さんの3名が話題提供者として、伝えるための映像化・ビジュアル化の重要性を話してくれました。

グループワークでさらに理解を深め、地域の伝統や行事を次世代につなぐために欠かせない「小学生の参加」、そしてその記憶に「楽しい体験」として残すことが重要であること、また伝承や記録を残す際に「見ただけで理解」できるようにビジュアル化するなどの大切さについて、活発に

意見が交わされました。

●第7分科会

理想の交通って…? in松本

信州大学地域参画プロジェクトCHANGGEの内田佑香さんと市建設部交通安全・都市交通課大塚友宏さんから、活動の成果や市の交通政策が話題提供されました。市の進めるパークアンドライドやシェアサイクルに対し、より使いやすく、そして中心市街地向けだけでなく、他の地区同士も結べるように進めてほしいとの意見がありました。

グループワークはCHANGGEが進行し、松本の理想の交通のあり方を、現在・30年後・100年後と考えました。

まとめの会

学びと気づきの共有のため、

市民活動 商店街

「未来へつなぐ 私たちのまちづくりの集い」の一環として、Mウイング2階フロアにて開催され、今回は14団体の展示がありました。活動内容に関心を寄せる来場者も多く、説明に聞き入る姿が見られました。



それぞれの分科会のまとめが発表されました。

牧野先生より、「みなさんがこの松本市を、未来につないでいきたい、という気持ちがよくわかりました。子どもたちが大人と一緒に地域にかかわっていると、40代になったころ地元に戻ろう、尽くそうという気持ちになる傾向が強いとわかっている。子どもたちと一緒に活動し、子どもたちの成長を楽しむ。そのためには学ばなければならぬ。それをするのが私たちの自治、自分たちのことを自分たちでやろうとすることです。そのように見ていくと、今回の11の分科会がすべてつながっていくと思います。」と講評をいただきました。



鯛萬の井戸と公民館

松本城の東に位置し、飲食街と住宅地とが混在する町会です。スナックなどが並ぶ裏町周辺と聞くと分かる方も多いかもしれませんが。現在は190世帯が暮らしています。公民館が完成する以前は、裏町会館が集会所として利用されていましたが、近年それもなく、近くの正行寺や恵光院をお借りして総会などを開いていました。

下横田町会とは

昨年12月、東部地区下横田町会に建築面積89平方メートルの町内公民館が完成しました。そこで、その完成までの経緯などを巣山篤夫町会長にお話を伺いました。

下横田町に新公民館誕生

建設までの流れ

以前に比べ、近所付き合いも稀薄になってきていると常々感じ、皆が集い、話し合い、絆を作る場所が欲しいと思っていました。すると平成30年9月、鯛萬の井戸の向かい（現在地）に良い場所がみつかり、公民館建設の具体的な話し合いが始まりました。しかし、建設地として決定するまでには、この場所が最も公民館にふさわしいかどうかを市からも問われ、町内29か所を候補地として比較検討し、この場所に決まりました。建設資金

公民館のこれから

利用計画はまだこれからとのこと。しかし、鯛萬の井戸での夏祭りや屋内も使用できるようにすることや、料理教室、空手やダンス教室など利用の問い合わせもあり、寄贈された85インチのテレビも利用して、いずれ地域住民の「楽しい我が家」となることとしよう。

利用できることを一番喜んでくれて、建てて良かったと思います」と話してくれました。令和元年の節目に小さいながらも公民館が完成し、新たな時代の進展と相呼応して、公民館を軸とした新たな活動が発展することをお祈りします。



自慢の大型テレビ 活用しましょう

写真でつづる まつもとの今昔④7

～ 赤レンガ造りの旧山崎歯科医院 ～



昔

(2000.4 写真提供: 日本報道写真連盟)

市役所南にある明治21 (1888) 年建築の洋館で、赤レンガ造りの2階建て。平成8 (1996) 年に国登録有形文化財に指定されていた。



今

(2020.2.27 撮影)

平成23 (2011) 年6月30日松本市を襲った地震で激しく損壊し、解体された。建物の南東角に壁の一部などが残っている。

おこひる

毎年一月半ばにランニング仲間と「初詣ラン」を行っている。アルプス公園東入口駐車場をスタートし、二つの国宝、十か所の

神社仏閣を巡り、最後は芥子坊主を経由してアルプス公園に戻る約三十キロのコースを走る▼初代主催者から私が引き継ぎ今年で五年目だが、毎年走るルートを少しずつ変えてきている。こだわっているのは路地や小路といった普段は通らないような道を多く入れることだ▼有名なところでは外濠小路やナワテ横丁があるが、松本城近辺には車の入れない小路が今でも多く残っており、どのルートにするか頭を悩ませる▼意外なところでは美ヶ原温泉。ここにも風情のある路地が残る。お湯かけ地蔵からの路地は旅館の本館と離れの間にあり、路地に置かれた離れに渡るための「すのこ」を避けながら歩くこととなる▼日々のランニングでも新ルートを開拓しようというが、そろそろネタが尽きそう。浅間温泉あたりの路地でも加えようか、いや距離が延びると仲間が怒られる。

歴史探訪

探ろう松本 16

歴史や文化の薫り漂う 第二地区

江戸時代から町人の町・職人の町として発展し、今もその伝統や技術を守り受け継いでいます。しかしながら高齢化や住民の減少で、新たな地域づくりが求められています。

地域の現状と特色

第二地区は松本市街地の中心部に位置し、令和2年3月1日現在、1409世帯、人口2523人、東西は善光寺街道が通った博労町や、それに続く本町通りの一つ東、飯田町通りから源地界隈まで、南北は、北は中町の南側から南は薄川までの範囲です。現行の住居表示では本町1～2丁目、深志2～3丁目・中央2～3丁目と埋橋1丁目の範囲に及んでおり、18町会で構成されています。女鳥羽川と薄川の扇状地上にあることから、地下水が豊富に湧き出て、今も生活用水として井戸水を使用している家庭もあります。地区内に相澤病院・藤森病院と比較的規模の大きな医療機関があり、地域の医療を担っています。また、まつもと市民芸術館は芸術文化発信の源であるとともに、地域の防災拠点になっています。

歴史と文化

江戸時代は地区の北側およびその半分の範囲が城下町でした。天神様として親しまれる深志神社は天満宮と宮村大明神の両社が祀られ、南深志の総鎮守として400余年の歴史を誇ります。江戸時代末期の『善光寺道名所図会』に当国一の名水と紹介された「源智の井戸」は「平成の名水百選」に選ばれ、暮らしに根差した代表的な文化財になっています。



源智の井戸

暮らしに根差した代表的な文化財になっています。

地区の課題

第二地区は旧市内の中では高齢化率が一番高く、高齢者の5人に1人は一人暮らしです。若い人は密集した地区か

ら郊外へ移り住むため人口減少が続く、子どもの出生率も低く地区内に子どもがあまりいない状況です。

さらに、第二地区には学校が1校もなく、小中学校は6校に分かれて他地区に通っています。そのため、天神祭りの舞台に乗る子どもが少なく、他町会からの応募によってお囃子が続いています。

第二地区はあがたの森通りが中央に走り、地区を南北に分断しているうえ、地区公民館・福祉ひろばが地区の最南端にあるため、北側の住民が通うには大変不便をきたしています。また町内公民館のある町会には三分の一に留まります。将来的には町会の合併も模索しつつ、地域づくりを町会単位ではなく、地区として考えていく必要があります。



深志神社で盆踊り

ちょこっと

松本さんぽ

トラツグミ

全長約30cmの大型のツグミ。名前の由来の「トラ」は、全身が黒と黄色の虎斑模様による。夜に笛のような声でヒー、ヒョーと鳴き、以前は鶴(ぬえ)と呼ばれ恐れられていた。根雪の無い地域で越冬。松本のアルプス公園では、この時季比較的容易に見ることが出来る。



枯葉の中からクモを捕えて投げ上げ、パクツと食す瞬間
(撮影:2020.1.29 アルプス公園)

地産地消のかんたんレシピ

お洒落な

『かぼちゃのパイ皮スープ』

ちょっと手を加えて
スープをアレンジ!!

材料: かぼちゃスープ、卵、パイシート

1. 器にかぼちゃスープを入れて、縁をぬらしてパイ皮でフタをする
2. パイ皮の表面に卵黄を薄く塗る
3. パイ皮にちょっと焦げ目がつくまで、オーブンで焼く

